

現場で使える生成AI

～AI(人工知能)活用～



2. AIの得意領域

AIには、人間がやると時間がかかったり、ミスが起きやすい作業をすばやく正確にこなす力があります。では、AIがどんな場面で力を発揮しているのか、実例を見てみましょう。

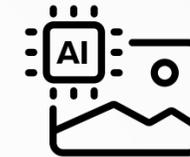
文章理解・生成



自然な文章を自動でつくる

.....
ChatGPT、メール文の自動作成

画像生成、画像認識



指定した人物を画像で作成
背景の一括編集なども可能
写真や映像から特定のものを見つける
イラストやアイコン
顔認証、製造業での傷・不良品検出

音声認識



音声を文字に変換する

.....
音声入力、電話対応AI

データ分析



大量のデータを分析して
パターンを発見

.....
売上予測、顧客の購買傾向分析

自動制御



状況を判断して自動で動く

.....
自動運転、ロボット制御

予測



将来のことを予測する

.....
天気予報、商品の需要予測

3. AIの苦手領域

AIは過去のデータをもとに学習し、パターン認識や予測に優れていますが、人間の創造力・感情理解・常識的判断・未知の状況への柔軟な対応などは苦手分野です。

創造力・ひらめき



「過去のデータ」から学ぶため、新しい発想や独創的なアイデアは苦手

新しいデザインの発明、詩やジョークの創作

共感・感情理解



「人の気持ち」を本当の意味で理解できない

接客での気配り、子どもや高齢者への心配り

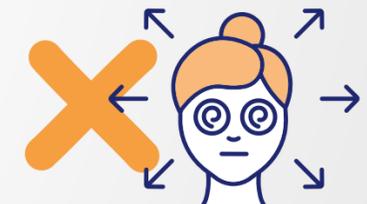
文脈・常識の理解



会話の前後関係や、人間社会の“当たり前”を判断するのが難しい

「空気を読む」「言外の意味をくむ」など

不確実な状況の対応



前例のない状況・曖昧な判断が必要なときは、うまく動けない

「道の道路」「新種の欠陥検出」など

6. 予測型AI vs 生成型AI：AIでも得意領域は異なる

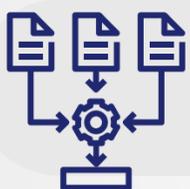
AIには大きく分けて2つのタイプがあり、それぞれ得意なことが違います。予測型AIと生成型AIがどのように生活やビジネスで使われているのか紹介します。

予測型AI

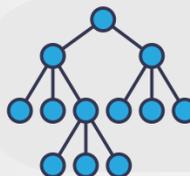
「未来を予測」「分類」が得意



過去蓄積データ
履歴を大量取り込み



データを数学・統計的に
モデリングし学習



未来に起こることを
予測データで分類



予測結果の出力

天気予報
など

生成型AI

「新しいコンテンツ」を自ら生成できる



過去の多様データを
モデルに学習させる



生成のための
基盤モデルを構築



新しいコンテンツ生成



生成物
(テキスト・画像・音声・コード)

メール作成
画像生成など

3. ChatGPTを使いこなす！ プロンプト入力の4つのコツ

ChatGPTは、入力の仕方（プロンプト）次第で答えが大きく変わります。
よりの確な返答を引き出すために、4つのコツを押さえましょう。

STEP

1

具体的に指示しよう

「プレゼン作って」ではなく「新製品紹介用の3分プレゼンを作って」など、目的・形式・長さを明確に。

STEP

2

役割を与えよう

「あなたは人事担当者です。入社式の挨拶文を考えてください。」と立場を指定すると自然な回答に。

STEP

3

出力形式を伝えよう

「箇条書きで」「300字以内で」など、整理された出力が得られます。

STEP

4

トーンを指示しよう

「もっと簡単に」「カジュアルな表現にして」などの再指示で質を高められます。